

■成田市地域公共交通計画 令和4年度 評価指標達成状況一覧表

評価指標	1.路線バス・コミュニティバス利用者数	2.コミュニティバスの収支率の改善	3.公共交通に満足している人の割合	4.バス待ち環境の改善	5.総車両台数に占めるバリアフリー対象車両の割合	6.利用促進に係る事業・イベントの数	7.ICT、デジタル化への対応数
目標値	600万人 ⇒ 650万人	21% ⇒ 25%	43.5% ⇒ 50%	6箇所	バス : 68% ⇒ 80% タクシー : 18% ⇒ 25%	5回/年 ⇒ 10回/年	3事業
実績値	5,190,946人	19%	最終年度に評価を実施	1箇所	バス : 68% ⇒ 69% タクシー : 18% ⇒ 25%	10回/年	最終年度に評価を実施
達成率	79.9%	76.0%		16.7%	バス : 86.2% タクシー : 100%	100%	
達成状況	△	△		○	○	◎	
今後の方針	新型コロナウイルス感染症の影響と思われる利用者数の低下が見られるものの、現在は復調傾向にあり、今後の利用者数の回復と、施策への取組による回復後の増加を目指す。	新型コロナウイルス感染症の影響と思われる利用者数の低下が見られるものの、現在は復調傾向にあり、今後の利用者数の回復と施策の取組による回復後の増加に加え、運行本数・ルートの見直しなどによる効率的な運行による改善を目指す。		ハード面的整備になるので、利用者から整備を求められている場所を見極め、順次着手していく。	バリアフリー対象車両の導入は進んでおり、タクシーについては目標値を達成した。バスは微増となったため、引き続き車両入替のタイミングなどでバリアフリー対象車両を取り入れていく。	引き続きイベント数を維持、向上させ公共交通の利用促進させる。	
現状値の考え方	新型コロナウイルス感染症の影響がなく、平常値であると考えられる平成30年度の路線バス及びコミュニティバス利用者数の合計値を採用。	新型コロナウイルス感染症の影響がなく、平常値であると考えられる平成30年度の収支率を採用。(小数点第1位切捨て)	平成30年度に市で実施した市民アンケートの「路線バス・コミュニティバス・オンデマンド交通の満足状況」-「⑦総合的に見た移動手段の満足度」の「満足」及び「やや満足」が全体に占める割合を計上。	新たにバス待ち環境の改善を実施するものであるため、現状値なし。	令和3年4月末時点の総車両台数及びバリアフリー対象車両(バス:ノンステップバス、タクシー:バリアフリー対象車両)から割合を算出。	令和元年度に市と交通事業者が実施した事業・イベント数を計上。	今後実施する事業であるため、現状値なし。
評価の方法	バス事業者及び市コミュニティバス事業担当課から各年のバス利用者数を確認し、集計する。	運賃収入及び運行経費を市コミュニティバス事業担当課に確認し、以下の計算により算定する。 運賃収入÷運行経費	平成30年度に実施したアンケートと同様の設問でアンケートを実施し、集計する。 ※令和9年度に実施予定	バス待ち環境整備の実施箇所数をカウントして集計する。	各年度末時点の総車両台数及びバリアフリー対象車両数を確認し、割合を算定する。	市と交通事業者が実施した事業数を聞き取り、計上する。	市で実施する公共交通に係るICT・デジタル化に寄与する事業数を確認する。 ※令和9年度に実施予定
実績値の根拠	・千葉交通(株):4,527,377人 ・ジェイアールバス関東(株):262,538人 ・成田空港交通(株):234,587人 ・コミュニティバス:166,444人	年間運賃収入:27,912,982円 年間運行経費:146,239,452円	-	[新生成田市場バス停]  令和3年11月完成	【バス】 ノンステップバス台数/総車両台数 ・千葉交通(株):53台/75台 ・ジェイアールバス関東(株):11台/15台 ・成田空港交通(株):1台/8台 ・コミュニティバス:8台/8台 計:73台/106台 【タクシー】 バリアフリー対象車両台数/総車両台数 ・参考タクシー(株):8台/32台 ・(株)都市交通:0台/29台 ・国際空港交通(株):5台/21台 ・エミスタクシー北総(株):13台/35台 ・松崎交通(株):0台/48台 ・多古タクシー(有):5台/21台 ・東関交通(株):1台/18台 ・京成タクシー成田(株):43台/85台 ・(株)芝山タクシー:0台/8台 計:75台/297台	・千葉交通(株):1回 ・ジェイアールバス関東(株):1回 ・成田空港交通(株):8回	-